### 3 最上氏時代堀跡(SD16064)出土遺物

※遺物写真の縮尺は統一していません。

### 【上層出土遺物】~建物火災後の一括廃棄痕跡の様相~

上層からは極めて多量の屋根瓦類が出土しました。その特徴は鬼瓦の文様の多様さと、「金箔瓦」 が非常に多いことです。また、焼けた「壁土」には薄く化粧漆喰が認められ、漆喰壁をもつ本瓦葺建 物が焼失した事実がうかがえる点です。以下に鬼瓦を写真で紹介します。





金箔押沢瀉(オモダカ)紋黒鬼瓦

宝袋(巾着)紋黒鬼瓦







果実(一つ桃)紋黒鬼瓦【焼失痕】

金箔押三花弁紋黒鬼瓦

果実(三つ桃)紋黒鬼瓦【焼失痕】

# 【下層出土遺物】~生活・儀礼に伴う廃棄痕跡の様相~

下層からは、多様な有機質遺物が出土しました。箸・容器側板・下駄・櫛など用途が分かるもの のほか、建築部材や壁土芯材の竹の破片があります。その他【碁石】と考えられる石製品や、中国 から輸入された磁器【染付中皿・大皿】など嗜好品と考えられる遺物が出土しました。









碁石 (石製品)







花鳥紋染付大皿(中国産?)

獅子紋染付中皿(中国産)

櫛 (木製品)

### 編集後記

現地説明会開催に当たり関係各位に多大なご理解・ご協力を賜りましたこと誠に感謝申し上げます。なお、山形城跡の復 原事業に係り山形市では関連する資料を探しています。お心当たりの方は下記までご連絡下さいますようお願いします。 【お問い合わせ先】〒990-8540 山形県山形市旅篭町二丁目3番25号 山形市まちづくり推進部公園緑地課 16023(641)1212代 【編集·発行】山形市教育委員会 社会教育青少年課 文化財保護係

### 史跡山形城跡(2017) 本丸御殿跡発掘調査 現地説明会資料

平成29年11月11日 (土) 山形市教育委員会 社会教育青少年課

### 調査要項

調査担当

国指定史跡 山形城跡 山形市霞城町 (霞城公園) 在 地 遺 跡 番 1番(山形県遺跡地図) 調 査 期 平成29年5月18日~12月28日 (予定) 本丸御殿跡 約1,300㎡ (説明会開催対象) 査 面 史跡山形城跡 (霞城公園) 整備事業 (文化庁補助事業) 査 原 因 跡 種 別 遺 城郭 (近世城郭) 時 代 近世・近現代 堀跡・石垣・溝跡・礎石根固石列・石列遺構 など 瓦類・陶磁器碗皿類・土師質土器・木製品・金属製品・古銭・石製品 など 調査事業の主体 山形市まちづくり推進部公園緑地課 調査実施の機関 山形市教育委員会

### 1 概要(史跡の立地及び周辺の環境)

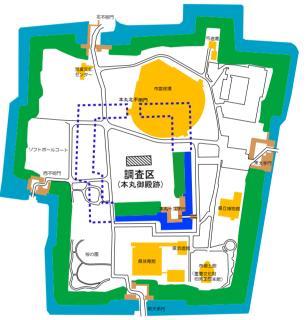
山形城跡は、最上義光が整備したといわれる本丸・ 二ノ丸・三ノ丸からなる罕城です。昭和61年に国史跡 指定を受けて以来整備に取り組み、二ノ丸東大手門や 本丸一文字門石垣などを復原し、新たなシンボルとな っています。

山形市教育委員会 社会教育青少年課

平成23年度より「本丸西堀・西土塁跡」の調査を文 化庁の補助を受けて行っています。また、平成24年度 より「本丸御殿跡」の整備を目的とした発掘調査を同 補助により実施しており、西堀・西土塁跡と並行して 調査を行っております。

城跡の周囲は市街地となっており、その中心に位置 します。市街北部を流れる馬見ヶ崎川による扇状地上 に立地し、本丸一文字門付近で海抜約130mを測り湧水 地帯に築かれた平城であったと考えられます。

本丸御殿跡周辺は明治時代の改変により御殿に関連 する表出遺構は消滅しており、地下遺構の調査が重要 と考えております。



第1図 山形城跡調査区位置図

#### 歴代蒾主任表

近しい田	工十级																
明治二年	弘 化 二 年	明和四元年	延享三年	     こと	元 录 十 三 手	10录 11年			寛文八手	慶安 元 年 年 年	写 一十年	1000000000000000000000000000000000000	章	元 10 1 1	慶長五年	延文元年	和暦
— 八 六 九	— 八 西 五	- 七 六 七 九 七	七四六	- t (	 - 7 0 7 0 2	 \ / \ /	 \		ー - 六 7 六 []			 5 7 9 3 5 7	 - 7 = - 	- - - - -	- 六 0 0	一 三 五 ) 六	西暦
水水野岛。精	秋 秋 秋 秋 元 元 元 元 元 志 次 永 永 朝 朝 朝 朝	ツ 幕で 京 京 市 府 領 領 語 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(大給) 松平乗右・堀田正亮	堀 堀っ 田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・	(奥平) 松平忠 (奥平) 松平忠 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京	(結城)松平直矩	堀田には、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	奥平 目 5 5 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	(奥平)松平忠弘	(結城) 松平直基	幕於何領	保科正之	鳥居忠極	最上家信(義俊) 最上家親	最上義光 光	斯波兼頼	藩主
五万石	六 万 石		六 万 石	ー 〇 万 石	一〇万石	一〇万石	一〇万石	九万石	十五万石	十五万石		二十万石	二十二万石	五十七万石			石高

# 第1段階の石垣 第4段階の石垣 第2段階の石垣 SD16064(最上氏時代堀跡)の (第1段階の石垣との 西側石垣は北側石垣よりも構 築き留めの関係は詳細 築段階が古いことが確認され 観察が要。規模等は第1 た。堀底の構築法にも差が認 段階の石垣と類似)。 められる。今後詳細観察が要。 堀跡(最上氏時代) 第5段階の石垣 SD16064(最上氏時代堀跡) の北側から東側にかけての 石垣は、一連の石積みによ り構築されているため、北東 第3段階の石垣構 の入り隅は入組状の石積み 築時に裏込め砂利 となっている。 とともに埋設され た石材[捨て石? ▼石垣の切り合い 1※石材の規模は 第3段階の石垣 第3段階石垣に近 (自然礫やや大で横積み) 最上氏時代 本丸御殿跡検出堀跡 い印象がある。 (SD16064)北西部詳細石垣配置図 [S=約1/150] 【北西部石垣群の移り変わりと役割について】 北西部石垣群は、最上氏時代の堀跡 (SD16064) の北端部の西側で発見した石垣群で、 調査の結果、上記のように5段階にわたる石垣構築の順位が確認されました。また、 これらの石垣が築かれる以前は、【溝跡2】があり、その溝跡を埋立てて石垣が築か れています。特に、堀跡の東西の石垣に構築順位(第4・5段階の石垣)が認められ る点は、堀跡をはさんだ東西の空間(場所)に差異があった可能性が考えられます。

### 2 発掘調査のまとめ

平成 29 年度の本丸御殿跡発掘調査の目的は、江戸時代中頃 (1700 年 年代)の御殿に関連する遺構を検出することでした。それを踏まえ、 今年度の発掘調査の成果は次ぎのとおりです。

- ①江戸時代中頃の遺構(特に井戸跡)は発見できませんでした。
- ②最上氏時代(江戸時代初期)の山形城本丸跡に係る遺構群を検出した こと、特に調査区中央の堀跡の詳細調査を行い、堀跡の姿とその北西 部石垣群の構築順位を確認しました。そこから、かつて東西にあった 堀跡を埋立て、さらに石垣を築き南北の堀へと移り変わる城の改修の 姿を読み取ることができました。
- ③堀跡から出土した瓦には大量の【金箔瓦】が含まれていました。また 鯱瓦のほか、数種類に及ぶ鬼瓦からは複雑な屋根構造や建物の多層性 がうかがえます。その文様からは大名家の家紋という単一の意匠性の みではなく、瓦葺建物の導入にあたり近畿圏あるいは広く西国の寺院 に係る造瓦職集団とのかかわりを示すと考えられます。

